

## 2009 SUPER GT 第3戦 富士

◇◆◇GW中の一戦、富士で大健闘の4位入賞を果たす◆◆◇

■2009年5月3～4日

■静岡県・富士スピードウェイ

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：8位 / 決勝：4位

◆5月3日 予選

【ヘヴィウエイトのマシンを操り、予選8番手につける】

開幕戦岡山での勝利、そして第2戦鈴鹿で見せた粘りの8位入賞、と強さをアピールしながら序盤を戦ってきたKONDO RACING。

今や、GT-Rは最低車両重量の1130kgに46kgのハンディウエイトが搭載され、総重量ではGT500クラス最重量マシンになってしまったNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-R。

しかし、今回の富士でもヘヴィマシンを巧みにコントロールする活躍ぶりを発揮した。

まず、予選日の朝に行われた公式練習。

事前のイニシャルセッティングに手応えを得たチームは、早速決勝に向けての準備を開始。

装着タイヤの選択やセッティングに微調整を加えるなど、綿密にスケジュールをこなした。

午後からの予選。1時40分から始まったGT300クラスとの混走では、まず荒がコースイン。

安定感あるクルマで予選通過基準タイムを難なくクリア。

アタックを担当するJ・P・デ・オリベイラ選手は、GT500クラスの専有走行に入ってから

周りとのタイミングを見計らってアタックを開始する。

やや遅めのアタックとなったため、チェッカー直前でベストタイムを更新。

マークしたタイム1'35.459は8番手となり、スーパーラップへの出走を果たすこととなった。

予選1回目に比べ、スーパーラップが始まった午後3時50分ころには、

すでに気温、路面温度ともに緩やかに下降が始まっていたことから、

アタックを前に、タイヤのウォームアップをより丁寧に行ったオリベイラ選手。

計測が始まりアグレッシブな攻めに転じたが、勢いあまりAコーナー進入で挙動を

乱してスピン。

そのままアタックは継続できたが、ベストラップを更新することなくアタックは終了。

結果、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは8番手から決勝スタートを迎えることになった。

#### ◇ドライバーコメント◇

今回はいつになくたくさん周回することができました。決勝のクルマのセットアップ、

タイヤチョイスなど、細かな仕事を丁寧に行うことができたが、それもすべてクルマがいい状態にあるからこそ。しっかり走ることができたので、決勝でも安定したペースでレースができると思います。いい流れを作っていきたいですね。

#### ◇監督コメント◇

JP（オリベイラ）は序盤のタイムがすごく速かったんですが、スピンしてしまい残念でした。

チームとして今回クルマが重いので、スーパーラップに残れないかもという思いがありました。

それだけに、最後はJPがガンバってポジションアップし、スーパーラップに出られてよかった。

スタッフがそれぞれ自分の仕事をこなしている証拠だと思います。

#### ◆5月4日 決勝

【現状の持てる力をフルに発揮、4位入賞に成功】

2日とも穏やかな日和に恵まれた富士スピードウェイ。やや風は冷たいものの、雨の心配もなく、サーキットに詰め掛けたおよそ5万人の観客には最高の観戦日となった。

朝行われたフリー走行でも、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rはセッティングの微調整を続け、

最後の最後まで「強さ」を発揮すべく、努力を重ねる。

そんな中、気温は午後2時からの決勝を前に、じわりじわりと上昇。

一時は強い日差しが照りつけ、路面温度が40度近くまで上がったが、

スタート後は薄曇りの中で、400km、88周に渡るバトルが繰り広げられた。

なお、今回はレース中に2度のピットインが義務付けられ、さらにその都度ドライバーが交代しなければならない。No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rでは、オリベイヤ選手、荒、そして再びオリベイヤ選手というオーダーを組み、スタートを迎えた。

絶妙なタイミングでスタートを切ったオリベイヤ選手。1コーナーそしてヘアピンで上位陣がコースアウトや接触というアクシデントに見舞われたが、その間隙を縫ったオリベイヤ選手はなんと2番手までポジションアップ。トップを激しくプッシュしてオープニングラップを終えた。

オリベイヤ選手の勢いは留まるどころを知らず、ついには9周目の1コーナーで逆転に成功！  
2番手No.1 GT-Rと緊迫した少差の攻防戦を続けながら、周回を重ねていく。そして迎えた1回目のピットイン。20周を走り終えたオリベイヤ選手から荒へとスイッチ。  
35秒でルーティンワークのすべてを終え、コースへと復帰した。

コース上はまだピットインを終えていないライバル達が先行する状態。だが直接のライバル、No.1 GT-Rはピット作業でNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rを上回り、荒の前でコースへとひと足先に復帰したことから、事実上2番手での追い上げを開始することとなった。

そうこうするうちに、他車も1回目のピットインを終え、再び直接対決が始まる。No.36 SC430も素早いピットワークで上位に浮上したことから、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは3番手を走行することに。さらにヘヴィウェイトのNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rに対し、フットワークのよい他車が次第に迫り来るが、荒は巧みなライン取りを見せて追撃をシャットアウト。55周目のピットインまで見事3番手を守り抜き、オリベイヤ選手へステアリングをゆだねた。

終盤のスティントに入ると、勢いづく後方のNo.8 NSXが軽いマシンでストレートスピードを稼ぎ、猛追。オリベイヤ選手も懸命に応戦したが、最終的には逆転を許してしまった。とはいえ、このまま4番手でチェッカーを受けたNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-

Rは

開幕戦から3戦連続でポイント獲得に成功。ランキングトップに再び浮上することとなった。

◇ドライバーコメント◇

ライバルたちに比べると相当重いクルマであるにも関わらず、今日はいいい戦いができました。

最初のピットインもほぼ予定通りでした。いいポジションでコースに復帰したのだから、

抜かれるわけにはいかない！ という強い気持ちで周回を重ねていきました。

今回のレースウィークでは、最初からキチンとクルマのセットが見つかったので、

レース本番に強いGT-Rの良さをしっかりと発揮することができたと思います。

今回の結果によって、ウェイトがまた重たくなるため、次戦はセパンV3という目標が

とても厳しいものになってしまいましたが、とにかくしぶといレースをして、取れる限りポイントを積み重ねていこうと思います。

◇監督コメント◇

今日はいいいレースでした。内容はもちろん、チーム力がモノをいうすばらしい戦いができました。

序盤のスティントでどう戦うか、軽めのクルマでレースをした作戦もよかった。

いい流れでレースをすることになりました。予想以上にいい結果が出たことで、

またウェイトを積むことになりましたが、セパンでもいいいレースをしたいですね。